



2 主な施策の取組状況

重点戦略2 強みを伸ばす



(3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

①-1 水田の高度利用と新技術導入による生産の拡大 ※トピックス(2)と関連

○ 土地利用型農業におけるスマート農業技術の導入(上都賀地域)

- 上都賀地域では、ドローン、防除用ボート、GNSS(衛星測位システム)搭載田植機等のスマート農業技術の導入が進んでいます。
- 特に、ドローンは近年急速に導入が進んでおり(地域内で46経営体が導入)、安全運航を図るため、JAかみつがサービス(株)ドローン利用者協議会が主催する「ドローン飛行訓練会」が令和3(2021)年5月に開催されました。
- 今後もスマート農業技術の導入を推進し、作業の効率化及び省力化を図ります。



散布装置の取扱説明



飛行訓練の様子
(上都賀農業振興事務所)

○ さといも新規栽培者確保のため「湛水栽培」の見学会を実施(上都賀地域)

- 上都賀地域は、さといも栽培が盛んな地域ですが、高齢化などの理由で、栽培面積は減少傾向となっています。
- さといも新規栽培者を募集し、産地の活性化を図ることを目的に、新たな栽培方法である「湛水栽培」の見学会を、8月に鹿沼市と日光市で開催しました。
- 「湛水栽培」により、除草作業や病虫害防除が軽減され、増収の効果があることを実際に確認しながら説明できたため、産地の理解促進につながりました。



見学会で、さといもの生育状況を確認し、管理の省力化について説明を受ける生産者

(上都賀農業振興事務所)

(3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

①-2 水田の高度利用と新技術導入による生産の拡大 ※トピックス(2)と関連

○ スマート農業現地研修会を開催(下都賀地域)

- 令和3(2021)年10月19日、栃木市藤岡町にてスマート農業の先端技術を見学・体験する現地研修会を開催しました。
- 研修会では、GNSSのVRS方式による高精度位置情報を農業機械(田植機・コンバイン等)に登載した自動操舵を実演しました。
- 今後も、さまざまな先端技術の紹介を通じて、稲作の水管理労力の省力化など、農作業の効率化を図ります。



自動操舵による稲刈り実演



後付けした自動給水栓

(下都賀農業振興事務所)

○ スマート農業による水田での水管理自動化の取組(塩谷南那須地域)

- 高根沢町は、水田での水管理を省力化するため、県内企業(株式会社farmo(ファーモ))と協力し、スマート農業の実証実験を行いました。
- 水位センサーと給水ゲートを試験した結果、有効性が確認できたことから、実証製品の購入要望を調査し、経費の一部を補助することとなりました。
- 今後も地域のニーズに合ったスマート農業の導入を進めていきたいと考えており、町と連携し、情報の提供等について協力していきます。



水位センサー設置の様子

(塩谷南那須農業振興事務所)

(3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

①-3 水田の高度利用と新技術導入による生産の拡大 ※トピックス(2)と関連

○ ねぎの機械化一貫体系による経営規模拡大(那須地域)

- 大田原市の合同会社マルホファームでは、水田を活用した収益性の高い露地野菜の生産拡大に取り組んでいます。
- ねぎの労働時間の大半を占める収穫及び選別作業を軽減するため、土地利用型園芸産地展開加速事業を活用し、収穫機や調整機を新たに導入しました。
- 同社では、平成30(2018)年から農福連携に積極的に取組み、機械導入が就労継続支援施設利用者の作業環境改善にも効果を上げています。



ねぎ収穫機



ねぎ選別機

(那須農業振興事務所)



(3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

②-1 施設園芸の生産性・収益性の向上

○ いちご「とちあいか」の生産技術向上

- 令和元(2019)年産から栽培が開始された新品種「とちあいか」は、令和3(2021)年の栽培面積は52.2ha(県面積の約10%)となり、今後も拡大が見込まれています。
- 栽培者の平均単収は、約6t/10aと「とちおとめ」より約3割多く、食味や品質も市場・消費者から高く評価されています。
- 課題であった空洞果等の障害果の発生は、生産者等と連携して対策技術を徹底した結果、大きく減少しました。



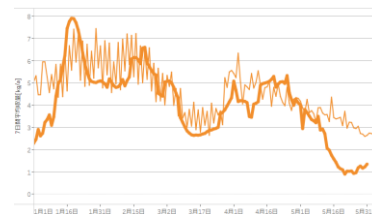
とちあいかの着果状況



現地検討会
(経営技術課)

○ AIを活用した「とちあいか」の生育コントロールシステムの開発

- 「とちあいか」の飛躍的な収量の向上や高単価期の出荷量増大を実現するため、令和2年度からAIを活用した生育コントロールシステムの開発を進めています。
- 生産者や研究者などで構成するコンソーシアムにおいて、収集データを分析・検討した結果、データの可視化や収量予測等のシステムの機能の原型が完成しました。
- 今後は、システムのプロトタイプを試行し、令和6(2024)年度の完成に向けて使いやすさや精度をさらに向上させていく予定です。



収量予測の原型



コンソーシアムでの検討
(生産振興課)

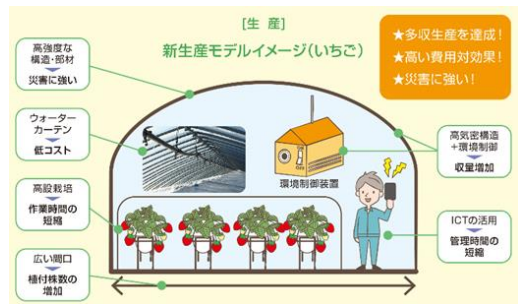
(3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

②-2 施設園芸の生産性・収益性の向上

○ 新たな「いちご王国・栃木」戦略の策定を開始

- 10年後の目指すべき姿や実現するための方策などをとりまとめた「いちご王国・栃木」戦略の策定を進めています。
- この戦略は、半世紀以上に渡り、生産量日本一の本県が、揺るぎない「いちご王国・栃木」へと進化するためのものです。
- 今後、関係者と戦略を共有し、新品種「とちあいか」を主軸とした需要への対応力強化や次代を担う経営体の育成、生産のイノベーションを進めていく予定です。



革新的技術や生産性の高い施設の導入イメージ

(生産振興課)

○ 令和3(2021)年度栃木にらセミナーを開催

- にらの生産拡大を図るため、栃木にらセミナーが令和4(2022)年3月11日にオンラインで開催され、生産者や関係者など約80名が参加しました。
- 現在展開している「栃木にらNo.1産地奪回運動」の成果と今後の方向性の提案のほか、各産地の生産者による優良事例発表等があり、産地における現状の共有や新技術の効果についての理解が深められました。



優良事例発表



発表会場の様子

(生産振興課)

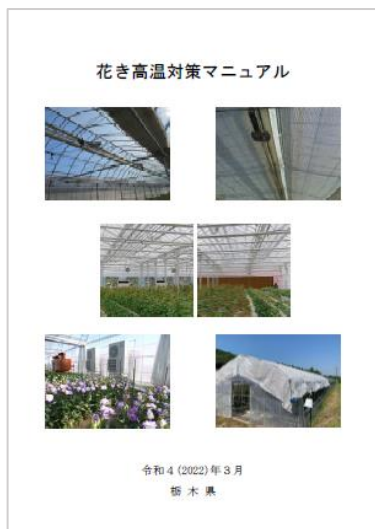
(3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

②-3 施設園芸の生産性・収益性の向上

○ 花き高温対策マニュアルを作成

- 花き生産の安定化や需要に応じた供給を図るため、令和元(2019)年度から令和3(2021)年度にかけて、高温障害の発生状況や要因、高温対策技術の効果について調査を行い、その結果をまとめた「花き高温対策マニュアル」を作成しました。
- 本マニュアルの活用により、花きの生産性向上の一助となることを期待しています。



花き高温対策マニュアル

輪ぎく、スプレーぎく、ゆり、りんどう、トルコギキョウ、ばら、カーネーション、シクラメンの8品目を掲載しています。

(生産振興課)

○ スマートリリー実証プロジェクトによる新たなスマート農業へのアプローチ(河内地域)

- 「スマート農業技術の開発・実証プロジェクト」(農林水産省)の支援により、ユリの低コスト、安定生産につながる新たなスマート農業技術の導入に取り組んでいます。
- AIによる薬剤散布、環境測定装置を用いた生産者間のデータ共有等に取り組むことで、高品質な国産ユリの需要拡大につなげていきます。



AI搭載無人走行防除車両による薬剤散布の様子



環境測定装置によるハウス内環境の見える化

(河内農業振興事務所)

(3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

②-4 施設園芸の生産性・収益性の向上

○ には大規模経営体の育成(上都賀地域)

- には大規模生産者3名が、「鹿沼には組合」を結成しました。
- ウォーターカーテン等の新技術を活用した先進的な施設を整備し、周年安定生産を確立。雇用を活用し、更なる規模拡大を進めています。また、加工・業務向けを中心に、販路拡大にも取り組んでいます。
- これらにより、県内では初となる、には生産者の2戸が、販売額1億円以上を実現しました。



ウォーターカーテンハウス団地とそぐり機・雇用を活用した調整作業の様子



(上都賀農業振興事務所)

○ 異常気象に対応したいちご栽培マニュアルの作成(芳賀地域)

- 温暖化により、30年前と比べて年間平均気温が約1.5℃上昇しています。
- この結果、炭疽病の多発や頂花房・1次腋花房の花芽分化の遅れ等により生産が不安定になっています。
- 温暖化に対応したいちごの栽培マニュアルを作成するため、基礎調査を行い必要なデータの収集を進めています。



定植後の株元を冷やすクラウン冷却技術



上部の暑い空気を攪拌除去する循環扇



肩換気技術

(芳賀農業振興事務所)

(3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

②-5 施設園芸の生産性・収益性の向上

○ パイプハウス・灌水装置を導入し葉物栽培の生産拡大を支援(下都賀地域)

- 壬生町と下野市の若手生産者5名がほうれんそうや小松菜など葉物の生産拡大を図るため、「しもつけ葉物生産組合」を設立しました。
- 作付面積の拡大を図るため、パイプハウスの新設や灌水装置「ウォーターカーテン」などの導入を支援しました。
- 今後も、園芸作物の振興を図るため、生産性向上に向けた支援を行っていきます。



灌水装置が導入されたハウス



ほうれんそうの栽培状況

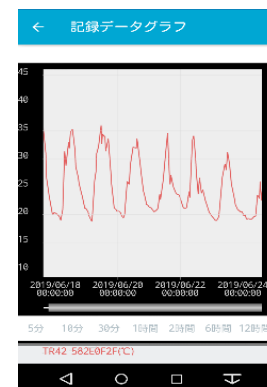
(下都賀農業振興事務所)

○ ICT技術を活用した輪ぎく品質向上(下都賀地域)

- 小山花卉園芸組合キク部会(小山市)では、輪ぎくの品質向上のため、ICT技術を活用した自記温度計を部会員全員が導入しています。
- スマートフォンで施設内温度をリアルタイムで確認できるため、高温化対策に役立ち、中でも、夏秋作付品種「精の一世」の最上位等級率は、導入前の50%程度から60%以上になるなど、収益力の向上に貢献しています。



収穫直前の輪ぎく



スマートフォン画面

(下都賀農業振興事務所)

(3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

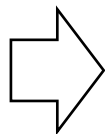
②-6 施設園芸の生産性・収益性の向上

○ 多様な支援による園芸産地の基盤強化への取組(安足地域)

- ・ 収益性の高い園芸産地を目指し、市、農業協同組合、農業振興事務所が連携して技術支援や産地生産基盤パワーアップ事業等の活用による施設や機械の導入を進め、いちごなど施設園芸への新規参入、規模拡大に取り組んでいます。
- ・ 加えて、遊休ハウスのマッチングシステム構築と補助事業を活用したリフォーム支援により、新規参入者が就農しやすい環境づくりに取り組んでいます。



リフォーム



- ・ リフォーム前後のハウス
- ・ 空きハウスをリフォームし活用することで、新築よりも安価に規模拡大や新規就農が可能となり、産地の基盤強化へ寄与

(安足農業振興事務所)



(3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

③-1 需要対応力の高い土地利用型園芸の拡大 ※トピックス(2)と関連

○ 土地利用型園芸産地育成セミナー(サツマイモ)を開催

- 土地利用型園芸産地の拡大を図るため、近年ニーズが高まっているサツマイモの生産・販売に関するセミナーを令和3(2021)年12月9日に開催しました。
- セミナーには、約80名が参加し、需要動向や栽培技術、契約取引の留意点等について理解を深めました。
- また、活発な意見交換も行われ、更なる産地の拡大が期待されます。



セミナーの様子



参加者間での意見交換

(生産振興課)



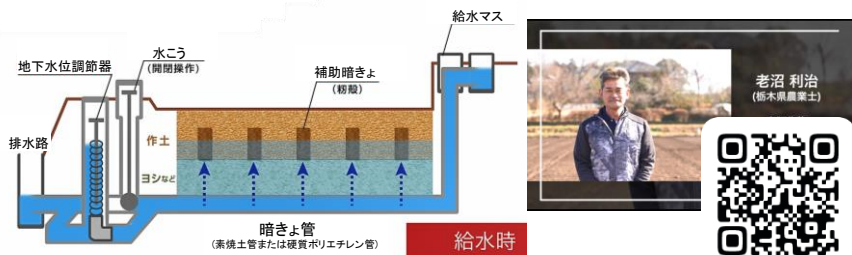
(3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

③-2 需要対応力の高い土地利用型園芸の拡大 ※トピックス(2)と関連

○ 地下かんがいシステムの実証(その1)

- 水田を活用した露地野菜の生産拡大に向け、既存の暗きょ排水施設を利用した「栃木県型地下かんがいシステム」の有効性(作物の収量向上、排水性の向上)を確認する現地実証を佐川南地区(野木町)他3地区で行いました。
- 佐川南地区では、本技術の導入により、スイートコーンの増収率は1.2倍となり、水田で畑作物の安定生産が可能になりました。
- 今後、産地収益力の向上に向け、本技術の導入を推進していきます。



地下かんがいシステムの構造図

動画で生産者の声が確認できます

(農地整備課)

○ 地下かんがいシステムの実証(その2)

- 那須地域では、園芸作物の導入促進のため、地下かんがいシステムを導入したほ場を活用して、ねぎ栽培の実証結果やICT水管理システム等のスマート農業機器の紹介などの研修会を開催しました。
- 参加した担い手等の農業者からは、水管理の効率化、排水対策などを望む声や技術への期待感、基盤整備と合わせて導入する必要性の声がありました。
- 引き続き、研修会等を通じて農業者等への理解促進を図ります。



ほ場での研修の様子



ロボット草刈機の紹介

(農地整備課)

(3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

③-3 需要対応力の高い土地利用型園芸の拡大 ※トピックス(2)と関連

○ 土地利用型園芸メガ産地の確保・育成(芳賀地域)

- 令和3(2021)年9月、真岡市の土地利用型園芸モデル産地と、安定的な農地確保を目指す足利市の生産者が連携した「菅谷・前橋 真岡メガファーム」が組織され、補助事業を活用した県内初の土地利用型園芸メガ産地づくりに着手しました。
- 今後はねぎを中心にキャベツ、にんじんの加工・業務用出荷を強化し、3年後には90ha超の作付けにより、価格交渉力のある強い産地を目指します。



キャベツ乗用収穫機

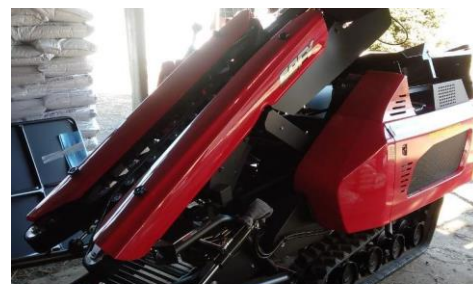


ねぎ乗用管理機

(芳賀農業振興事務所)

○ 新たに2産地が「産地づくり基本構想」を策定(下都賀地域)

- 水田を活用したねぎの産地化を目指すため、栃木市と下野市の生産組織が「産地づくり基本構想」を策定し、取組を開始しました。
- 下都賀地域では、ねぎの他、レタスやじゃがいもなどを生産する7組織が露地野菜の生産拡大に取り組んでいます。
- 今後も、出荷調整施設の整備や機械の導入などを通じて土地利用型園芸の振興を図ります。



ねぎ収穫機
(下野市の組織)



調整後のねぎ
(栃木市の組織)

(下都賀農業振興事務所)

(3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

③-4 需要対応力の高い土地利用型園芸の拡大 ※トピックス(2)と関連

○ 実需者と生産者のリモートマッチングを支援 (下都賀地域)

- 青果物の販路を求める生産者と実需者を結びつけるため、信頼関係の構築に向けたマッチング支援を行いました。
- コロナ禍のもと、積極的にリモート機器を活用しました。
- マッチングでは、規格や荷姿・流通形態などについての意見交換が行われ、中には、商談・取引に発展したケースもありました。
- 今後も、生産者と実需者の架け橋となって収益力の高い園芸の振興を図っていきます。



リモート



対面

マッチングの状況

(下都賀農業振興事務所)

○ 下稲葉地区専門家派遣事業講習会を開催 (下都賀地域)

- 令和3(2021)年11月17日に、圃場整備事業に取り組んでいる下稲葉地区(壬生町)で専門家派遣事業講習会を開催しました。
- (株)流通研究所の有山上席研究員を講師に招き、「農産物の需要動向」をテーマとした講演には22名の土地改良区関係者が参加しました。
- 今後も、土地利用型園芸の振興に向けた地域への働きかけを進めていきます。



講演会の状況



大区画で整備されたほ場

(下都賀農業振興事務所)

(3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

③-5 需要対応力の高い土地利用型園芸の拡大 ※トピックス(2)と関連

○ 新たなさつまいも生産部会の設立(塩谷南那須地域)

- 令和3(2021)年3月に設立された「JAしおのやさくらさつま芋部会」は、県内の干し芋加工企業と連携し、さつまいもの産地振興に取り組んでいます。
- 水田を活用した新たな露地野菜の産地作りの事例として周囲から注目されるとともに、遊休農地解消にもつながると期待されています。



定植作業の様子



収穫作業の様子

(塩谷南那須農業振興事務所)

○ 成果を上げるほ場見学会(塩谷南那須地域)

- 塩谷南那須地域では、管内の2JAと連携し、ほ場見学会を開催しています。
- 令和3(2021)年度は、ねぎ、にら、さつまいも、なすなど、19品目で23回のほ場見学会を開催し、各品目の特徴や栽培技術、機械化体系等について理解を深めました。
- ほ場見学会は、新規栽培者の着実な確保につながっています。



さつまいもほ場見学会



ねぎほ場見学会

(塩谷南那須農業振興事務所)

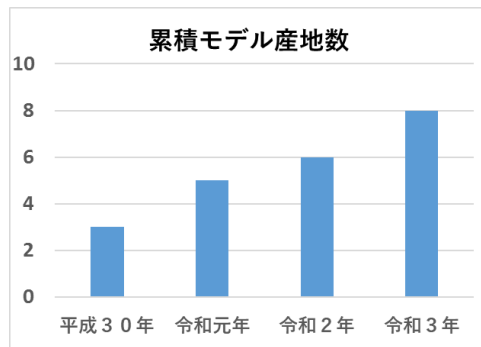
(3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

③-6 需要対応力の高い土地利用型園芸の拡大 ※トピックス(2)と関連

○ 増える露地野菜モデル産地(塩谷南那須地域)

- 露地野菜産地育成の取組を進めた結果、「産地づくり基本構想(3年後の作付け目標などを定め、産地の拡大を目指す構想)」を策定したモデル産地が増加しています。
- 令和3(2021)年度には、新たに2産地(さつまいも、ねぎ等)が基本構想を策定し、累計モデル産地数は8産地となりました。
- 各産地は県単補助事業を活用し、省力化機械の導入等を進めています。



モデル産地
JAしおのや枝豆研究会
(塩谷南那須農業振興事務所)

○ 土地利用型園芸推進セミナーの開催(塩谷南那須地域)

- 需要が減少傾向にある「主食用米」から、国産需要が高まっている「露地野菜」等への品目転換を図り、安定した経営体育成を推進するため、1月27日に推進セミナーをオンラインで開催しました。
- (株)ひじや農園(小山市)の土屋代表取締役から野菜経営のポイントの講演のほか塩谷南那須地域の二人の生産者の意見交換により、生産者および関係機関・団体の野菜生産に対する理解が深まりました。



塩谷庁舎からの
中継の様子



土屋氏と生産者との意見交換
(塩谷南那須農業振興事務所)

(3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

④-1 低コスト生産による稲・麦・大豆の競争力の強化

○ 水稲多収品種の生産性、コスト低減の実証

- 主食用米の需要が減少する中、水田における収益力向上を図るため、6地域で水稲多収品種の導入によるコスト低減を実証しました。
- 実証の結果、水稲多収品種の収量は約660kg/10aとなり、低コスト化技術と組み合わせることで所得が約2割向上しました。
- 今後、水稲多収品種の導入を進め、産地間競争力のある水田農業を展開していきます。



ドローンによる追肥



多収品種現地検討会

(生産振興課)

○ 粃米サイレージ給与技術研修会の開催

- 配合飼料価格が高騰している中、県では畜産農家の飼料費削減のため、粃米サイレージの普及拡大に取り組んでいます。
- 粃米サイレージは、生粃をそのまま破碎・発酵させた新しい飼料で、農業者の理解醸成に向けて、調製方法や給与方法に関する研修会を開催しました。
- 今後とも、粃米サイレージを始め、水田を活用した自給飼料増産の取組を推進していきます。



オンライン研修会の様子



粃米サイレージ

(畜産振興課)

(3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

④-2 低コスト生産による稲・麦・大豆の競争力の強化

○ 事業を活用し麦・大豆の作付拡大と団地化を推進(塩谷南那須地域)

- 農業者の高齢化に伴い、担い手への農地集積が急速に進む中、那珂川町では、3名の担い手が令和3年度に水田麦・大豆産地生産性向上事業を活用してシーダーやコンバイン等の機械を導入し、麦・大豆の規模拡大を図っています。
- 人・農地プランの話合いの中で、機構集積協力金等を活用しながら、麦・大豆の団地化を進めています。



大豆圃場



事業を活用して導入した大豆収穫用コンバイン

(塩谷南那須農業振興事務所)

○ 飼料用米の作付と多収品種の利用が拡大(安足地域)

- 各市農業再生協議会構成機関・団体の連携のもと、主食用米から飼料用米への作付転換を推進した結果、水稻作付に占める飼料用米の割合は、令和2(2020)年産の19%(616ha)から30%(942ha)に増加しています。
- 飼料用米生産における戦略作物助成の数量払い額向上を図るため、多収品種「にじのきらめき」と「ほしじるし」の導入を推進し、多収品種の作付は令和2(2020)年産比436%の84haに増加しています。



多収品種現地検討会



多収品種「にじのきらめき」

(安足農業振興事務所)

(3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

④-3 低コスト生産による稲・麦・大豆の競争力の強化

○ 地元食品企業と農業協同組合等が連携したもち性二条大麦の作付拡大(安足地域)

- 佐野市では、平成30(2018)年産から地元食品企業及び農業者、農協が連携して、栃木県が育成したもち性二条大麦「もち絹香」の栽培を始め、年々、作付面積を増やしています。
- 令和3(2021)年産の作付面積は、保管施設不足等の影響から令和2(2020)年産より微増の82haとなったものの、令和4(2022)年産は、流通安定コンソーシアムの設立と保管施設の改修を受けて96haまで増加し、更なる作付拡大が見込まれます。



「もち絹香」の収穫風景



定温保管施設の全景

(安足農業振興事務所)



(3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

⑤-1 生産性・持続性の高い畜産経営体の育成

○ 家畜人工授精に関する講習会を開催

- 家畜人工授精師を養成するため、令和3(2021)年7月1日から8月6日の期間、畜産酪農研究センターにおいて、令和3(2021)年度栃木県家畜人工授精に関する講習会を開催しました。
- 県内の畜産農家など20名が講習会に参加し、家畜人工授精に関する座学と実習に意欲的に取り組み、受講生全員が修業試験に合格しました。
- 今後、受講生の活躍による本県飼養牛における改良の推進が期待されます。



実習（乳牛の直腸検査）に励む受講生
(畜産振興課)

○ 酪農担い手確保推進協議会を開催

- 栃木県の酪農における担い手の確保・育成を推進するために、令和3(2021)年8月に酪農関係団体・市町・県で構成する栃木県酪農担い手確保推進協議会をオンラインで開催しました。
- 当日は、酪農の後継者育成に係る事例紹介の他、令和2(2020)年度に新規参入で就農された前田匡彦氏にご自身の体験談について講演いただき、就農時に活用した支援策など具体的な事例を共有することができました。



酪農の新規参入で就農された前田氏夫妻
(畜産振興課)

(3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

⑤-2 生産性・持続性の高い畜産経営体の育成

○ 牛伝染性リンパ腫(EBL)清浄化対策推進中

- EBLは全国的にも感染率が高く、経済的損失の大きい牛の病気です。県では令和元(2019)年から、牛飼養農場におけるEBL清浄化対策に重点的に取り組んでいます。
- また、令和3(2021)年度から、県内酪農家を対象に、EBL陰性農場から陽性農場に陰性牛を供給することによってEBLの清浄化を図る事業を開始しました。



EBL清浄化達成農場における防虫ネットの設置風景

(畜産振興課)

○ 知事認定獣医師制度が開始

- 本県における豚熱発生を予防するため、令和2(2020)年2月から家畜防疫員(県職員)によるワクチン接種を実施してきました。
- 令和3(2021)年10月から現行の接種に加え、知事が認定した民間獣医師(知事認定獣医師)もワクチン接種が可能となりました。
- 豚熱のワクチンをより効果がある時期に接種することを目指し、今後も防疫体制を強化していきます。



豚熱ワクチンと連続注射器



子豚へのワクチン接種

(畜産振興課)

(3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

⑤-3 生産性・持続性の高い畜産経営体の育成

○ 野生イノシシへの豚熱経口ワクチンを散布中

- 野生イノシシを介した豚熱ウイルスの拡散を防止するため、令和元(2019)年12月から野生イノシシに対して、豚熱経口ワクチンを散布しています。
- 散布場所は、県北、北東部を中心に、地中に埋設する地上散布を実施しています。
- 人の手による散布が困難な急峻な山間部には、ヘリコプターからの空中散布を実施しています。



散布作業風景



経口ワクチン



イノシシによる
摂取痕

(畜産振興課)

○ スマート酪農牛舎を整備

- 畜産酪農研究センターでは、ICT等を活用したスマート酪農の普及・推進に必要な技術開発を行うため、搾乳ロボット、環境制御システム、餌寄せロボット等を備えた「スマート酪農牛舎」を整備しました。
- 今後は関係機関と連携し、「暑熱対策技術の開発」や「疾病の予防・早期診断技術の開発」、「精密飼養管理技術の確立」などの試験研究を進めていきます。



スマート酪農牛舎



搾乳ロボット

(畜産酪農研究センター)

(3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

⑤-4 生産性・持続性の高い畜産経営体の育成

○ 極短穂品種導入による稲WCS高品質化及び生産・利用推進の取組(河内地域)

- 家畜飼料の高騰に伴い、稲WCS等の自給飼料の生産拡大が求められています。
- 稲WCS新品種「つきすずか」について、栽培方法と肉牛への給与方法の2つの展示ほを設置すると共に、その成果を現地検討会で広く普及しました。
- 共同収穫作業に新規就農者が加わるようにコーディネートする等、作付け拡大を支援した結果、「つきすずか」の作付け面積が3年間で25ha増加しました。



稲WCSを食べる肉牛



稲WCS収穫調製作業

(河内農業振興事務所)

○ 稲WCS用新品種「つきすずか」、「つきはやか」の採種の取組(下都賀地域)

- 近年、良質な発酵が期待でき、粳の割合が低い「つきすずか」、「つきはやか」などのWCS用稲のニーズが高まっています。
- しかし、これらの品種は粳数が少ないという特徴があるため、普及拡大のためには、安定的な種子生産が課題となっています。
- このため、農協や生産者の皆さんと生育調査を行い、結果の検証を行うなど、安定的な種子の確保に向けた検討を進めています。



生育調査の状況



つきすずかの草丈は平均160cm

(下都賀農業振興事務所)

(3) 生産力の向上

水田のフル活用、園芸振興、畜産経営体の育成などにより、農畜産業の更なる発展に向けた取組を展開しています。

⑤-5 生産性・持続性の高い畜産経営体の育成

○ スマート酪農現地研修(経営技術改善セミナー)を開催(那須地域)

- 畜産経営を行っている青年農業者を対象に、スマート酪農現地研修を開催しました。
- 酪農家の牛舎で行動測定機器を装着した牛を観察しながら、利用者からは、経営改善の効果を感じている点等について説明があり、メーカーからは、牛の行動測定機器の利用方法や他農家の活用事例等について紹介がありました。
- セミナーの参加者からは、多くの質問が出るなど、経営改善につながる活発な情報交換が行われました。



行動測定機器を首に装着した牛



牛舎内での説明の様子

(那須農業振興事務所)

